

総合的な学習の時間「閑谷學」授業実践紹介

授業者：3年次団探究担当者

学 年：3年

単元名：総合的な学習の時間

単元のねらい（7つのチカラ：①自分を理解する力②職業とつなぐ力③考える力④行動する力
⑤コミュニケーション力⑥チームワーク力⑦自立する力）

・「閑谷学校」の学びの精神を引き継ぎ、地域との関わりを重視しながら、自ら学び、自ら考える姿勢と、問題を解決していく力を身につける。

・自らの進路やつくりたい未来を構想し実現するために探究活動を行い個人論文にまとめることができる。

パフォーマンス課題と単元の流れ

【パフォーマンス課題】

3年次生全員が、自己の進路に直結する探究学習を行い、卒業探究論文としてまとめる。

【単元の流れ】

① 未来カフェ

目的：教員のキャリアヒストリーを聴き、教員、他の生徒と対話することにより、進路を身近に感じたり考えるきっかけを作る。

② 探究テーマ決定

進路実現につながる探究テーマを決定。

③ “問い”の設定

探究テーマを深掘りし、自分が明らかにしたい“問い”を設定する（“問い”はできるだけ小さく具体的に！）。

④ 個人探究開始

設定した“問い”に対する自分なりの解を得るべく探究開始。



中間発表の様子

⑤ 中間発表

「自分の探究テーマの魅力や意義等を相手に伝えるにはどうしたらいいか」を考えながらの発表。論文完成や最終発表へ向けて、探究のベースとなる部分を固める。

⑥ 夏休み課題—新書を読む

インターネットだけに頼らず、書籍を活用して探究を進める。

⑦ 「序論」を書く

中間発表でまとめた内容（探究テーマ・意義・探究手法など）を基に卒業探究論文の序論を書く。



フィールドワークの様子

⑧ 卒業探究論文完成

1年間の探究成果を2,000字以上の論文に集約。読み応えのある論文集になりました。

⑨ 卒業探究発表会

閑谷學でお世話になった地域の人や、進学先・就職先の方々、大学の先生方をお招きしての発表会。

単元を通して身につけてほしいこと

- ・自分の人生と社会の未来を自分で創っていく力
- ・情報活用能力・問題発見・解決力・表現力

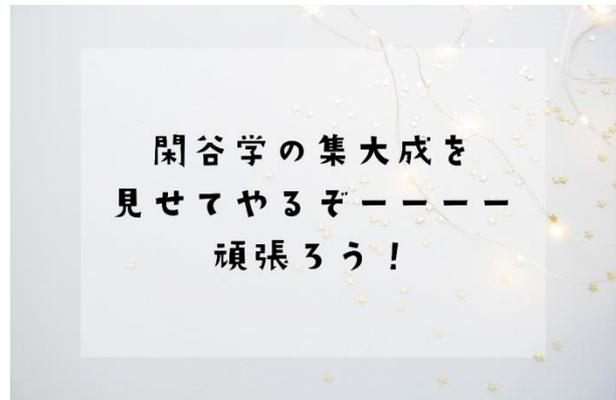
卒業探究発表会 実行委員

- 卒業探究発表会では、3年次生有志が実行委員として自分たちで発表会を創り上げていった。という発表会にしたいかを話し合い、「3年生全員が輝ける発表会」「参加者全員が満足する」というコンセプトを掲げた。コンセプトを実現するべく、自分たちでどんどんアイデアを出し、工夫していく姿は頼もしかった。同じく実行委員を募った1年前の探究学習発表会の時よりも大きく成長していると感じた。
- 中でも特筆すべきは、発表会の「シンポジウム*」でファシリテーターを務めたYくんで、当日すばらしいパフォーマンスを披露した。来客からもファシリテーターの生徒が素晴らしかったという声が多くあった。だが彼の真価は発表会当日よりもむしろその前の準備段階にある。初めて務めるファシリテーターという大役に挑むにあたり、基礎的なスキルや心構えだけでなく、どうしたら自分以外の登壇者が話しやすくなるか、生徒だけではなく外部からの来客に満足してもらうにはどうあるべきかなど、不安や疑問に真摯に向き合い、一つ一つ自分なりの解を見つけていた。本当の意味で探究的姿勢が身につけていると感じさせてくれた。

*シンポジウム：発表会の後半に行われた討論会。3年次生各ゼミの代表生徒と1,2年次生代表生徒が「理想の未来とそれを実現するためにできること」について議論をした。ファシリテーターも実行委員が務めた。



卒業探究発表会 実行委員長挨拶



生徒が作成したオープニング動画の一コマ

生徒の変容

- 自分の進路に対する当事者意識が高まったことにより、主体性や知的好奇心が喚起された。
- 年度当初は、個人で探究活動することに不安を抱いている生徒が多かったが、閑谷學に取り組みながら、1人でも意外とできるということに気づき、自信を持つ生徒が増えた。
- 自分の探究活動を見つめながら、課題を見つけて修正を繰り返すようになった。(探究活動のPDCAサイクルを自分で回せるようになった)
- それっぽい一般論としての“答え”ではなく、自分なりの最適解を探る姿勢が身についた。

評価

評価の材料

- 1 毎回の取り組み状況
 - 2 OPPシートと
 - 3 卒業探究論文
 - 4 発表会(中間発表・卒業探究発表会)
- ※評価者が1~3を総合的に判断する。

生徒振り返りから

- ・個人探究だったので自分で考える力がついた。
- ・誰が見てもわかりやすい文章にするために、何回も見直して、できるだけ良い論文になるようにがんばった。
- ・今年の閑谷學は、これからの活動で生かしていけるようなことばかりだったし、自分で調べる中で初めて知ったこともあり、ためになった。閑谷學で探究できて良かったと思う。